



1 脳のはたらきと腹部単純 X 線の読影



- 論理的思考
- 言語・視覚・聴覚

- 五感を司る
- 知覚・感性

脳は認識・思考により使われる場所が異なる。左脳は言語機能、論理的思考を司り、右脳は絵画や音楽などの芸術を理解することや空間認識を司る。

腹部単純 X 線の読影はまずは写真（絵）を診る（見る）こと。すなわち右脳を活用することから始める。そして、そのような所見を呈する病態を考えること。すなわち左脳を駆使して解答（診断）を導き出すのである。もちろん脳梁を介して、情報の共有が行われているはずだ。

したがって、絵を見る右脳の情報インプットが、不正確であったり思いこみや偏見があったり（free air はないから大丈夫、など）少なかったりすれば、当然左脳は正しい解答は導き出せない。一般に腹部単純 X 線の読影が難しい、もしくはあまり情報がないと思われるのは、実は右脳による情報収集が不足しているためではないだろうか。本書を読み進んでいただくことにより、腹部単純 X 線が実は多くの情報を有することを理解していただきたい。しっかりした情報収集ができれば、解答は自ずと導き出されるであろう。

2 腹部単純 X 線の読影のコツ

消化器内科医も含め、多くの医師は腹部単純 X 線を言葉で読み解こうとする。

すなわち「niveau はないか?」「free air はないか?」。それは裏を返すと想定した病態の有無しか判定していないことになる。

医療においては想定外の病態を診察することも日常茶飯事だ。腹部単純 X 線の読影は先入観念を排して、素直に「変なところを探す」のがよい。すなわち非科学的な表現ではあるが「直感」と「印象」を大切にしてほしいのである。

実際、著者も危うく見落としてしまいそうになって、ひやっとした症例を少なからず経験している。本書の提示症例の中の何例かは、腹部単純 X 線を診て一度は「異常なし」と判断している。でも「どうもひっかかる」ので、もう一度よく見直して異常と判断できた。

紹介する症例は、過去に多くの消化器内科医に読影してもらったが、正解率は半分程度だった。「その変な理由」を説明できないので、異常と認識できないことが多いのだ。つまるところ「変だけど説明できない」≡「異常なし」という思考が働いてしまっているようなのだ。「変な所見」をそのままに放置せず、「病気かもしれない」と考え精査をしてほしいのだ。そのあとで著者が感じた「変だな」を紹介し、読影方法と解答の CT 所見などを提示すると、「なるほど」を実感してもらえるのである。本書でも皆さんにこのような『アハ体験』をしていただきたい。

実は、腹部単純 X 線ではこの「変だな」を評価できればそれで十分で、最終診断をする必要はない。そのような症例には異常がないことを確かめるためにさらに診察を継続するのである。最初は侵襲の少ない腹部超音波検査もしくは腹部単純 CT でよいだろう。それで異常があれば腹部造影 CT や消化管内視鏡などを予定する。

具体的な思考過程を紹介しよう。

腹部単純 X 線の読影は写真を絵として認識することが必要なのである。

それはたとえば言うなら英会話における思考パターンと似ている。英会話では日本語で考えて日本語を英語に訳しているうちはあまり上達しない。英語で考え、英語で話せるようになるのが上達の近道である (『One Point Advice, p.6』)。腹部単純 X 線でもイレウスの診断を niveau を探して、あるからイレウスと診断するのではなく、それを見て腸管の拡張を確認できればそれでよいのだ。そうすれば腸管の閉塞による腸管内圧の上昇を呈する病態ですぐに減圧をしなければならぬ。場合によっては絞扼性イレウスを呈していて緊急手術が必要だという認識ができるはずだ。

腹部単純 X 線を絵として認識するのにわかりやすい例を紹介しよう。

日本地図をばらしてちりばめ、四角にしている。ご自身の出身県を探してほしい。それが「木」を見ることだ。その周辺 5~10 県のかたまりを見る。それが「林」の診断。全体を見ることが「森」の診断となる。

腹部単純 X 線の読影は「木」を見て「森」を見て、さらに「林」を見ることに相違ない。

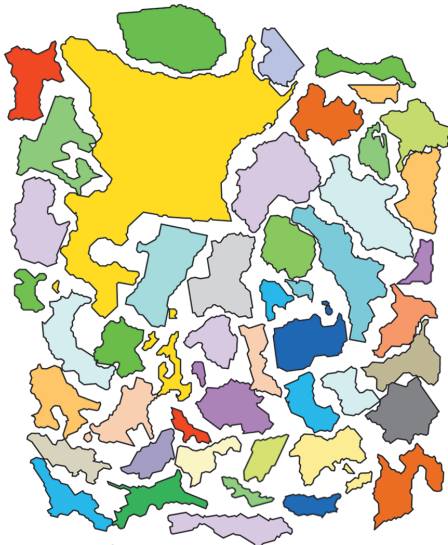
ある時は日本地図だが、ある時は南米、欧州、アフリカ、人によってその形は変わるのである。

したがって niveau, free air を腹部単純 X 線から探そうとするのが読影ではない。ジグソーパ

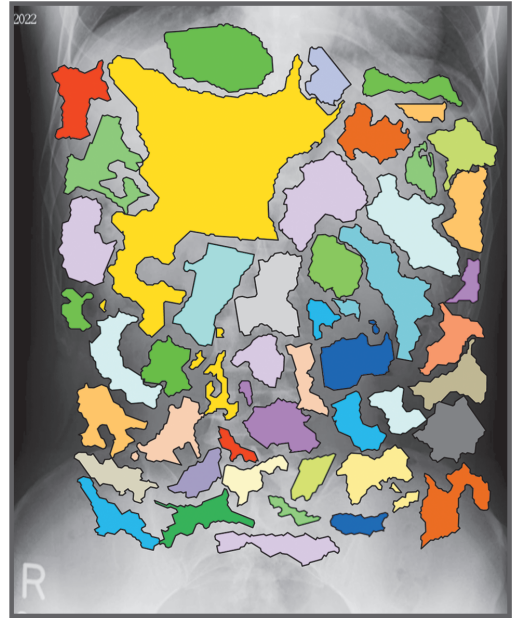
ズルに自分の手持ちのピースをあてはめる作業が読影ではないのだ。自分の中で固定観念をもつと診断できない。かえって見落としてしまうことがあるかもしれないのだ。実際には niveau のないイレウスも存在する。では niveau がなければイレウスの診断ができないのだろうか？

本書ではこれらのピットフォールに対し、読者に診断の手掛かりを渡したいと思っている。

■ 仮にこれを森としましょう



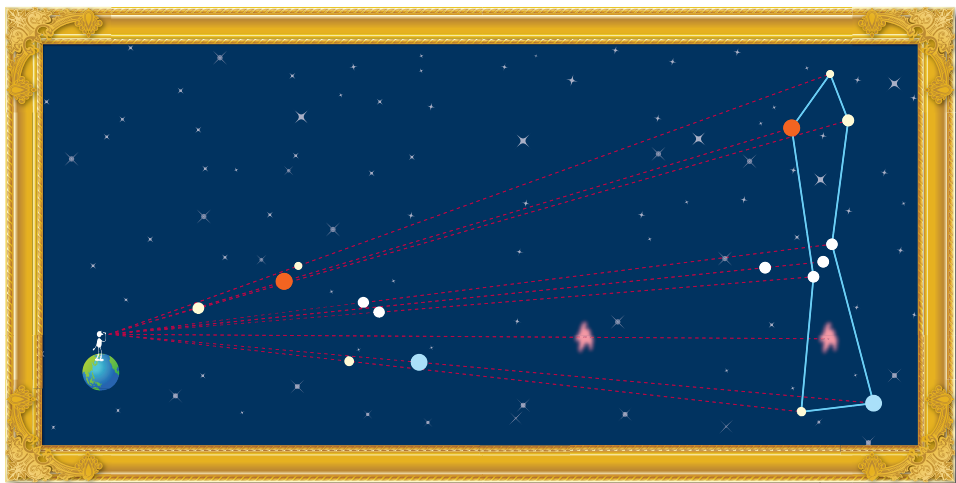
47 都道府県



これを腹部 X 線にあてはめると

 Coffee Break

透視力



皆さんご存じのオリオン座の星たちも、夜空という 2 次元平面に並ぶ姿は仮の姿で、本当は地球からの距離も場所もばらばらな 3 次元空間に散らばっているのです。

夜空のオリオン座を見て、3 次元空間に散らばる星たちの構造をイメージするということは、2 次元のもの (X 線写真) を診て 3 次元の体 (臓器) をイメージする腹部単純 X 線の読影と同じといえるでしょう。

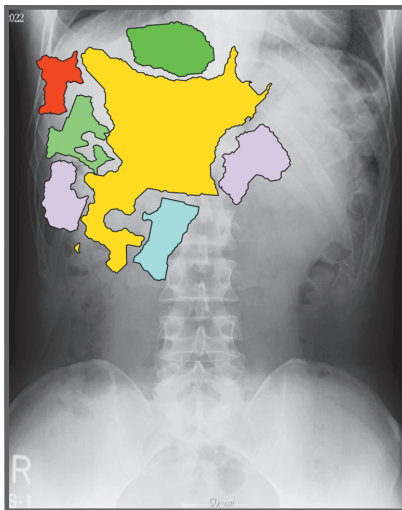
■ あなたの出身県はどこでしょう？



著者の出身は北海道

さしずめこれは木

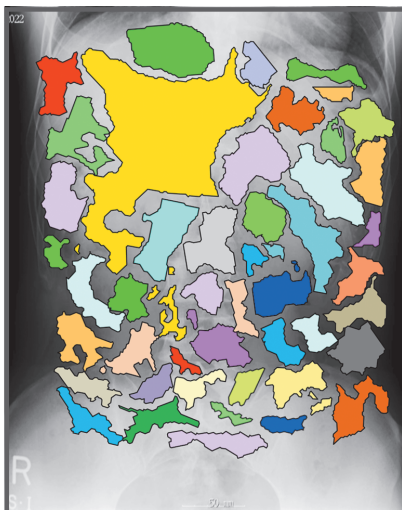
■ ターゲットとその周囲のものに関連性はないでしょうか？



著者の勤務地は東北

北海道・東北が林

■ 木、林、森すべてが見えないと正しい判断はできません

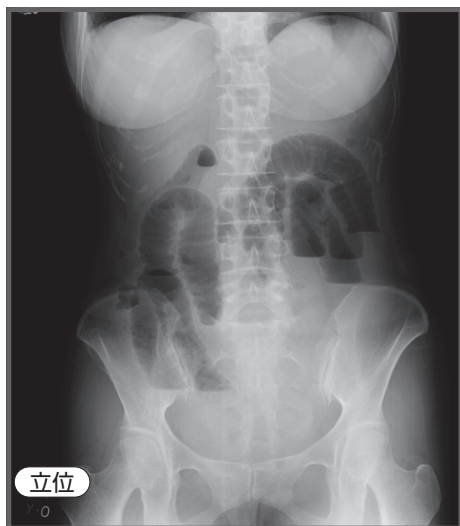


腹部単純 X 線の読影は、さしずめ全国を見ること、すなわち森を見る必要がある。

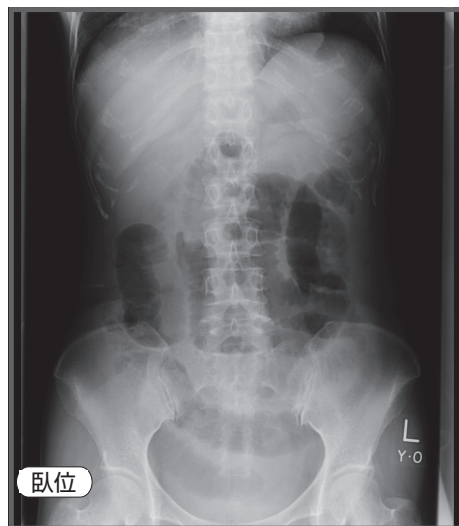
One Point Advice

読影とは“病態”を理解することである

- 腹部単純X線を言葉に置き換えて解釈することではない。
- すなわち絵（腹部単純X線）を病態として認識することである。
- 腹部単純X線読影の上達方法は病態をイメージしたパターン認識であるが、言葉をあてはめることではない。
- 例えばイレウス（症例 25）では



(△): X線⇒niveau⇒イレウスと診断



(○): X線⇒腸管の拡張⇒イレウスと診断

- 英会話で例えて言うと……



(△): (絵) ⇒花⇒ flower

(日本語で考え) ⇒英訳⇒英語で話す

(○): (絵) ⇒ flower

(英語で考え) ⇒英語で話す

- 腹部単純X線を見たときに、以前見た異常と似ているかを認識できるかにかかっている。
- すなわち絵（X線）を見たときに、病態をイメージできるかどうか重要なのである。